

2022 年 7 月 31 日（日）主日朝礼拝説教

『八つの幸い』 井上隆晶牧師

詩編 73 篇 21～28 節、マタイ 5 章 1～12 節

## ①【この世の幸いではない、天国の幸いを言っている】

ここには八つの幸いが出てきます。聖書が語る「幸い」は、この世の人が考える幸いと、およそ真逆のものです。貧しい人より、富んでいる者が幸いであり、悲しんでいる者より、喜んでいる者が幸いであり、強い者が地を継ぐのであって、弱者や柔和な者はいつも隅っこに置かれています。憐れみ深いようなことをしていたら、この世では馬鹿を見ます。ここでイエス様が言っている幸いとは、「この世的な幸い」を言っているのではなく「神の国の幸い」を言っているのです。そしてこの世の幸いを貰った人は、神の国での幸いは貰えないのです。ではこの世で豊かな富が与えられることは悪なのかと問う人がいるでしょう？決してそうではありません。富が与えられることは罪ではありませんが、それを他者の為に使わないこと、手離さないことは罪です。いつも言っているように、人はこの世と神の国の二つを同時に持つことはできないのです。この世を手に入れた人は、必ず神の国を失います。それはイエス様が繰り返し言っておられることです。

- ・「あなたがたは神と富とに仕えることはできない。」（マタイ 6：24）
- ・「人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。」（マタイ 6：1）
- ・「人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子になる。」（ルカ 6：35）
- ・「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、…を招きなさい。そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活する時、あなたは報われる。」（ルカ 14：13）

クリスチャンでもこの幸いの意味が分からず、この世の幸いを求め続けている人がいます。方向転換をし、目を覚まさなければなりません。

## ②【八つの幸い】

①「心の貧しい人」というのは、この世の物では満たされない人のことです。そのような人は幸いだということです。神様は人間に永遠を思う心を与えられました。それは、永遠に変わることのない愛、永遠に続く平安、永遠の命を求める心です。しかしそのようなものはこの世にはありません。無から有へと造られた被造物の特徴は変化だからです。資源は使えばなくなり、人の心は変わり、この世の平和は移り変わります。人がこの世にないものを求めるようにされたのは、最初から神を求めるようにされているからです。

●私がなぜクリスチャンになったのかをよく聞かれます。それは子供の時は毎日

が喜びと感動の日々で、与えられたもので満足していました。ところが大人になると何を与えられても暫くはいいのですが、そのうちに不平が出てくるのです。私は満足する心を失ってしまいました。だから幼子のような心に戻りたくてクリスチャンになったのです。これが「心の貧しさ」です。

②「悲しむ人」はなぜ幸いなのでしょう。悲しみにも二つあります。「**神の御心に適った悲しみは、取り消されることの無い救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。**」(Ⅱコリント 7:10) この世の悲しみは人を駄目にしますが、神が与える悲しみは人を悔い改めさせ、救いへ導きます。罪に悲しみ、悪に悲しみ、人を愛せないことを悲しむ人は幸いなのです。

③「**柔和な人**」というのは、寛容で、争いを好まず、忍耐により、善をもって悪に勝つ人のことです。モーセは柔和だったと書いています。そのような人は地に長く残ることが出来ます。怒りっぽい人は、同じ職場に続かず、人間関係も続きません。柔和な人はこの地と神の国を受け継ぎます。

④「**義に飢え渴く人**」というのは、人の義ではなく、神の義(正義)を求める人の事です。人には義はありません。皆同じようなものです。正しいのは神様だけです。その神様にいつも聞いて生きようとする人は神の正しさが人生の中に入ってくるでしょう。

⑤「**憐れみ深い人**」は幸いです。憐れみとは神の性質です。人を憐れむことのできる人は、他者からも愛され、助けられます。

⑥「**心の清い人**」は幸いです。清さは神の性質です。鉄と磁石のように同じ性質のものは引き合います。清い心を持つ人は、すべてのものの中に神を見ます。キリストの中には神の完全な表れを見、清い人の中にも、罪人の中にも神の断片を見ることが出来ます。自然界の中に溢れる神の美と善と恵みを見、聖パンと聖ぶどう酒の中にも、キリストを見ます。

⑦「**平和を実現する人**」は幸いです。悪魔は破壊者ですが、神は創造者、平和を造り出すお方です。だから平和を造る人は神に似た人なので、神の子と呼ばれるのです。人と人を仲介させる人もいるかと思えば、破壊する人もいます。平和を唱えることは簡単であり、誰でもできます。しかし平和を造ることは至難の業です。それは忍耐と愛がなければできません。それは切れたものを結ぶので、祭司の働きに似ています。そのような人がいる所には平和な交わりと集団が生まれます。

⑧「**義のために迫害される人**」とは、神のために迫害される人、神の御心を行おうとして反対され迫害される人の事です。そのような人は天の国を得ることが出来ます。

### ③【私たちは何を幸いとするのか】

詩編の73篇を書いた著者は、自分の不幸の事で悩んでいました。何か病気があったのでしょうか。「日ごと、わたしは病に打たれ、朝ごとに懲らしめを受ける」(14)

とあります。世の中を見ると、豊かな富を得、権力を持つ人たちが神を畏れず、悪と妥協して生きています。口を開けば、いつも嘘を言います。著者は苦しみの意味を知りたくて神殿を訪れ神に祈ります。祈っているうちに、彼らは滅びの道を歩んでいるのだということが見えてきます。富や権力は「畏・滑りやすい道」だったのです。

●今回の安倍晋三前首相の銃撃事件をきっかけとして、統一協会の犯罪、政治家と宗教の癒着問題が暴かれました。統一協会の講演会に参加している政治家の映像や名前までも公表されました。30年前にはいくらジャーナリストが暴いても、警察も手が出せませんでした。政治権力が介入したからです。それが今、封印が解けたように一斉に出てきました。それを見てみ言葉を思い出しました。「わたしは必ず時を選び、公平な裁きを行う。…神が必ず裁きを行い、ある者を低く、ある者を高くなさるでしょう。」(詩編 75 : 3、8)「隠れているものであらわにならないものはない」(マルコ 4 : 22)。神は必ず罪を暴き裁きます。神を畏れて生きなければなりません。

さて、詩編の著者は、文句や不満を言っていた自分もあやうく罪を犯すところだったことに気がつき回心します。「私は愚かで知識がなく、あなたに対して獣のようにふるまっていた」(22)。これだけ神に怒っていたのに、彼は信仰を失うことはありませんでした。なぜなら「あなたが私の右の手を取ってくださるので、常に私は御もとにとどまることができる。」(23)とあるように、神が彼をしつかりと握っていてくれたからです。それは私たちも同じでしょう。そしてついに彼が出した答えは「あなたから遠ざかる者は滅びる。御もとから迷い去る者をあなたは断たれる。わたしは、神に近くあることを幸いとする」(27～28)というものでした。

●星野富弘という人がいます。彼は体育の先生をしていましたが、バク転に失敗して首の骨が折れ、首から下が動かない重度の身体障害者になってしまいました。その後、彼はクリスチャンになり、口に筆を加えて詩と絵を画くようになり、詩画集を沢山だし、美術館までたつようになりました。彼の詩画集の中にこんなものがあります。

「喜びが集まったよりも、悲しみが集まった方がしあわせに近いような気がする。強いものが集まったよりも、弱い者が集まった方が真実に近いような気がする。しあわせが集まったよりも、ふしあわせが集まった方が愛に近いような気がする。」

イエス様が言われた幸いとよく似ているでしょう。この世の幸いを失った人は、神の国の幸いを見つけるのです。初代教会では奴隷や貧しい人や病人の多くがクリスチャンになりました。それはこの世の幸いを持っていなかったからです。彼らはキリストに期待し、キリストが下さる愛と平和とその国を喜んだのです。この世で豊かになることは幸せではないのです。「神に近くあることを幸いとする」私たちでありたいと思います。